



特集 農業未経験者の挑戦

昨今、全国的な課題となっている農業の担い手不足。糸満市も例外ではありません。今回、農業をするために県外から単身で糸満市に来た横山裕紀さんと、ファーマーズマーケットいとまん うまんちゅ市場 副店長の眞壁孝亨さん、市農政課職員の佐久川寛之さんを招いて、農業の楽しさや農業を始めるときの課題、生産者と消費者をつなぐ直売所の考え方などを対談していただきました。



糸満市役所 農政課職員
佐久川寛之さん



新規就農者
横山裕紀さん



ファーマーズマーケット
いとまん うまんちゅ市場 副店長
眞壁孝亨さん

農業を始めたきっかけと楽しみ
佐久川 前職は何をされていた、なぜ糸満市で農業を？

横山 前職は神奈川で国際物流関係の仕事をしていたんですが、ずっとパソコン業務で閉鎖的な感じがしていました。私自身、いろいろな人とコミュニケーションをとるような仕事をしたいと考えていたので、農業に挑戦してみようと。どうせやるなら誰も知り合いない、憧れがあった沖縄でやってみようかと思って調べたのがきっかけですね。たまたま調べたら知り合いの人が糸満市で農業をされていると知ったので、そこから農家さんを紹介してもらって、今は沖縄県の新規畑人資金支援事業（就農準備資金）を活用し、農業研修生として糸満の農家さんのもとでいろいろと勉強しているところです。

佐久川 県外から沖縄に行こうとなったのはすごいですね。

県内全域で新規就農者は減っています。就農を希望する人がいても、経験のない人の場合は続かないことが多く、横山さんのように、県外から沖縄に来て、農業をやりましようとなると、やはりハードルが高くなるので、地元の農家さんを紹介してもらえたというのは大きいことかなと思います。今は、農業をやられて楽しいですか。

横山 とても楽しいです。今までルーティンワークの業務で、自身の何が伸びているかわからない状態でした。野菜は日によって反応も違うので、毎日なぜだろう？といったことを一つ一つ追求していく楽しみがあります。これをやったからうまくいった、じゃあ次はどのように育ててみよう、といったことを毎日続けて、最終的には自身のブランドのようになっていって良いなと思っています。



佐久川 農業が楽しいと聞けて良かったです。いま受けている新規畑人資金支援事業は2年間補助金を受けられますが、その後は自身で畑をやるれる予定ですか。

横山 現在の支援事業で受けている研修を終えたら、独立して市の経営発展支援事業の活用を計画しています。ただ、その事業を活用するには土地がなければいけないことになっているので、現在お世話になっている農家さんの紹介

で土地を確保していく予定です。

佐久川 人とのつながりで確保できることは良いことですね。県外から来られて周りの環境などはどうですか。

横山 知り合いの農家さんのお手伝いなどを行って、コミュニケーションを増やしています。先週も豊見城市の農家さんのお手伝いに行って、お礼にバーベキューをやってもらったりして、とても人が温かいですね。

眞壁 農家さんは兄貴肌のような人が多い印象です。私もファーマーズで働き始めた頃は何もわからない状態でしたが、農家さんに「わからないことは、ちゃんとわからないと言って教えてもらいなさい」と言われて、良く聞くようになりました。そうすると、農家さんは聞いたこと以上の情報を提供してくれるので、当時は本当に助かりました。